

青果物の流通費用に関する調査研究 V

松 田 延 一

A Survey of Research Studies concerning the Cost of Distribution and Sale of Vegetables and Fruits. V

by

Nobukazu MATSUDA

は し が き

筆者は昭和45年以来、名古屋市中心卸売市場の本場へ出廻った青果物の流通費用の調査を行なってきたが、本稿は昭和47年7～8月に廻った青果物についての、調査結果の概要である。

本年度の調査の目的は、(1) 前報までの調査結果を補完し、追認するとともに、(2) 卸売価格の変動に伴ない、流通費用、生産者取得は、どのように影響を受けているか、(3) 市内の小売店の性格別にみた小売価格の差異および(4) 市内の地域別にみた小売価格の様相を明らかにすることにある。

調査対象、調査時期および調査方法

調査品目はこれまでと同じく、野菜は、なす、きゅうり、たまねぎ、ばれいしょ、とまとの5種、果物は、すいか、もも、プリンス・メロンの3種である。調査時期は昭和47年7月25日から8月10日までとした。そして産地から市場までの流通費用は、これまで通り、出荷者へのアンケートによって調査した。その品目別のアンケートの発信数および回答数を示すと、表1の如くである(表1参照)。

表1 アンケート発信数および回答数

	発信数	回答数	出 荷 県 名
な す	22	10	愛知3, 岐阜3, 三重1, 兵庫2, 山梨1
き ゆ う り	24	12	愛知9, 長野3
た ま ね ぎ	10	4	愛知1, 岐阜1, 兵庫2
ば れ い し ょ	15	6	愛知2, 三重1, 静岡1, 千葉1, 岡山1,
と ま と	24	11	愛知6, 三重2, 岐阜1, 長野2
す い か	83	23	愛知12, 静岡2, 千葉2, 山形1, 秋田2, 青森3, 鳥取1
も も	23	9	愛知2, 福島3, 山梨3, 長野1
プリンス・メロン	16	4	愛知2, 岐阜1, 青森1
計	217	79	回答率 36.4% 有効回答率 36.4%

次に小売価格の調査は、これまでと同様に調査員が店頭で、正札によって調査した。その店

の数，所在地は表2の如くである（表2参照）。

表2 調査小売店の地区別分布

	公 設	私 設	スーパ ・マ ーケ ット	スーパ ・ス トア	八百屋	専門店	デパート	計
中 川		3			2			5
守 山		7	2	1	4	1		15
西 北	1	2			4			7
千 種		4	1	2	1			4
瑞 穂	1	4	2	1	2	1		10
昭 和		4	1	1	1	2		10
港 和	2	2	4		3			9
緑 東		2	1	1	3			9
東		1	5		4			10
熱 田	1	1	1		3	2		7
南		6	1		2	1		5
中 村	1	5	5		3			14
中	1	2			1	1	2	7
中						2	3	5
合 計	6	34	23	6	33	10	5	117

なおその他の調査集計上の約束は，これまでと同様である（第I報の調査方法の項参照）。

調査結果の概要

A 卸売価格を中心とする調査

これまでの報告では，調査品目毎に，出荷者別に，1kg当りの卸売価格，流通費用，生産者

表3 卸売価格の構成比（%）（卸売価格=100）

A 野 菜

		な す	きゅうり	たまねぎ	ばれい しよ	とまと	平 均
調 査 数		10	12	4	6	11	(43)
流 通 費	運 賃	0.1	—	1.6	—	0.3	0.4
	駅 鉄 道	—	—	1.9	—	—	0.4
流 通 費	船	—	—	—	—	—	—
	ト ラ ッ ク	6.0	5.3	9.0	8.2	5.0	6.7
流 通 費	小 計	6.1	5.3	12.5	8.2	5.3	7.5
	荷 包 材 料 費	6.6	6.8	7.6	7.4	8.1	7.3
流 通 費	装 包 装 費	2.0	3.6	3.4	3.6	5.1	3.5
	小 計	8.6	10.4	11.0	11.0	13.1	10.8
用	検 査 料	0.2	0.3	1.6	0.1	0.0	0.4
	組 合 手 数 料	2.1	1.1	1.0	2.1	2.0	1.7
	卸 売 人 手 数 料	8.4	8.1	8.4	8.3	8.3	8.3
	そ の 他 の 経 費	—	0.0	1.0	0.5	0.0	0.3
以 上 合 計		25.4	25.2	35.5	30.2	28.7	29.0

生産者手取			74.6	74.8	64.5	69.8	71.3	71.0
(参考)	1kg当り(円)	卸売価格	91.73	81.79	27.89	52.65	92.27	70.27
		流通費用						
		固定的	12.12	11.98	7.71	9.35	19.68	12.17
		比例的	7.76	6.65	2.34	6.73	8.07	6.29
		生産者手取	71.93	63.16	17.84	36.57	69.52	51.81

B 果 実

			すいか	もも	プリンス・メロン	平均	野菜果物
調 査 数			22	9	4	(35)	平均
流 通 費	運 賃	駅 まで					0.2
		鉄 道					0.2
	荷 包 造 ・ 費	船					—
		ト ラ ッ ク	11.3	5.7	12.1	9.7	8.2
	小 計	11.3	5.7	12.1	9.7	8.6	
	材 料 費	6.0	10.5	19.2	11.9	9.6	
	包 装 費	2.8	5.8	4.3	4.3	3.9	
	小 計	8.8	16.3	23.5	16.2	13.5	
用	検 査 料		0.6	0.3	1.0	0.6	0.5
	組 合 手 数 料		2.0	2.4	1.2	1.8	1.7
	卸 売 人 手 数 料		7.0	7.0	7.0	7.0	7.7
	そ の 他 の 経 費		0.1	0.2	0.4	0.2	0.3
	以 上 合 計		29.8	31.9	45.2	35.6	32.3
生 産 者 手 取			70.2	68.1	54.8	64.5	67.7
(参考)	1kg当り(円)	卸売価格	31.86	122.58	58.75	71.06	
		流通費用					
		固定的	8.48	28.89	19.05	18.81	
		比例的	2.46	8.58	4.11	5.05	
		生産者手取	20.92	85.11	35.59	47.20	

取得などを算出したものを表示したが、本稿では紙面の関係上これを省略し、品目別の総括表のみを掲げておく。すなわち表3の卸売価格の構成比はこれである（表3参照）

この結果は、平均的には、これまでの調査結果と同じ傾向を示しているといえる。

B 小売価格を中心とする調査

次にこれまでと同じ方法により（第I報参照）、小売価格を中心とする調査をなしたが、この場合の小売価格は調査員の店頭調査の結果を平均したものであり、これに対照せられる卸売価格は、調査期間中、新聞紙上に発表せられた卸売価格の仲値の平均をとったものであること、これまでの調査方法と同じである。次にその結果を示すと、表4の如くである（表4参照）。

表4 青果物流通費用の諸指標

A 野菜

小売（価格=100）（%）

	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	平均
荷造単位量 (kg)	1	10	20	15	4	
1) 卸売価格	61.0	74.8	61.1	58.8	71.5	65.4
2) 出荷費用	10.3	12.8	29.9	12.9	14.6	16.1
3) 卸売人マージン	5.0	6.0	5.1	4.9	5.9	5.4
4) 仲卸人マージン	6.1	7.5	6.1	5.8	7.1	6.4
5) 小売商マージン	32.9	17.7	32.8	35.4	21.4	28.1
6) 流通費用計 (2+3+4+5)	54.3	44.0	73.9	59.0	49.0	56.1
7) 生産者取得 {1-(2+3)}	45.7	56.0	26.1	41.0	51.0	43.9

B 果物

	すいか	もも	プリンス・メロン	平均	野菜果物
荷造単位量 (kg)	1個3.75	5	4		平均
1) 卸売価格	63.2	57.3	58.5	59.7	62.6
2) 出荷費用	14.4	14.3	22.3	17.0	16.6
3) 卸売人マージン	4.4	4.0	4.1	4.2	4.8
4) 仲卸人マージン	6.3	5.7	5.8	5.9	6.1
5) 小売商マージン	30.5	37.0	35.7	34.4	31.3
6) 流通費用計 (2+3+4+5)	55.6	61.0	67.9	61.5	58.8
7) 生産者取得 {1-(2+3)}	44.4	39.0	32.1	38.5	41.2

以上の諸結果をみると、平均的には、概ねこれまでの調査結果と同じ傾向を示していることがわかる。

次に小売店の性格別にみた小売価格の状態を示すと、表5の如くである。

表5 小売店の性格別小売価格の比格（公設小売市場=100）

	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	平均
私設	121.1	115.8	116.4	107.4	91.9	110.5
スーパー・マーケット	101.0	132.8	113.7	107.6	95.6	110.1
スーパー・ストア	88.5	92.8	111.4	123.3	89.7	101.1
八百屋	85.3	123.7	110.6	99.1	81.3	100.0
専門店	—	—	—	—	118.7	118.7
デパート	144.5	119.9	138.2	179.9	126.8	141.9
平均	99.9	112.8	115.0	119.6	100.6	109.6

	すいか	もも	プリンス・メロン	エリザベス	平均	野菜果物平均
私設	120.1	91.6	89.4	117.4	104.6	107.6
スーパー・マーケット	82.2	99.2	75.0	108.1	91.1	100.6
スーパー・ストア	116.5	80.9	90.6	129.6	104.4	102.8
八百屋	107.9	91.0	84.6	118.6	100.5	100.3
専門店	121.4	127.4	114.1	208.8	142.9	130.8
デパート	214.3	142.8	184.4	230.8	193.1	167.5
平均	123.6	104.7	105.4	145.2	119.7	114.7

この表は、公設小売市場における小売価格に比べると、他の小売機関は、どのような状態にあるのかを示すものであるが、それらの小売機関の調査数が同じでないし、また調査品目数も均一でないから、品目別に、店別比較をなすというよりは、平均的にみて、どのような状態にあるかを窺う程度に止めるべきである。

これによると、野菜は公設市場（以下単に公設という）と普通の八百屋が最も安く、次いでスーパー・ストア、スーパー・マーケット、私設市場（以下私設という）、専門店、デパートの順となり、果物では（調査品目数が少ないので、一般的な結論を下し得ないが、この調品目に関する限り）、スーパー・マーケットが最も安く、次いで公設、八百屋、スーパー・ストア、私設の4者はほぼ同じ水準にあり、専門店デパートは著しく高価となっている。

次に市内の地域別に小売価格の比較を試みよう。

この地域別小売価格の比較は、今回はじめて試みたものであって、これだけの資料で、一般的結論を下すことは、もちろん慎まなければならぬから、ここでは一応1つの事例として紹介するに止める（表6参照）。

表6 地区別小売価格の比較

（全市平均=100）

区名	野菜	果物	平均	
中川	88.6	83.5	86.3	
守山	90.2	81.7	86.4	
西北	88.7	92.2	90.5	
	91.6	88.1	89.9	
千種	87.5	98.7	92.5	
	瑞穂	99.6	85.4	93.5
	昭和田	102.2	85.5	94.8
港東	100.6	87.6	95.0	
	緑東	103.6	82.2	95.6
	73.1	104.9	98.1	
熱田	103.1	97.6	100.4	
	中村	92.7	140.0	113.7
	南	107.9	159.8	127.3
中	134.6	148.0	140.7	

注 この場合の平均は野菜5種、果物3種の合計から計算したもので、野菜、果物の平均の平均ではない。

これによると、野菜と果物では、いくぶん順序は異なるが、その平均値をみると、中川、守山の両区は最も安く、次いで西、北、千種、瑞穂、昭和、港、緑、東の諸区がこれにつづき、次に熱田、中村、南の順で、中区が最高になっている。

考 察

以上は昭和47年夏期に出廻った青果物の流通費用と、それに関連する調査結果である。次に過去3年間の調査結果を省み、卸売価格の変動と流通費用、生産者取得について若干の考察を試みよう。

1. なす、きゅうり、とまとの昭和45～47の3か年における各調査期間の卸売価格の平均をみると、46年が最も安価であった。すなわち1kg当り、なすは45年、46.0円、46年37.5円、47年77.3円であった。きゅうりは同様に55.8円、43.7円、93.8円、とまとは65.0円、46.3円、115.3円であった。そしてこの場合、卸売価格に対する運賃荷造費用などいわゆる出荷費用の割合は、卸売価格の安い年に高く、卸売価格の高い年は低くなっている。このことは理論的には当然のことであるが、われわれの調査結果にもその傾向がみられる。その他の青果物についても同様のことがいえる。

このことから、卸売価格の上昇によってうるおるのは、第1に生産者であるといえる。

2. 第Ⅲ報にも述べたように卸売人の手数料は定率従価手数料であるから、卸売価格の上昇によって、卸売人は、生産者と同様にその恩恵を受ける。

3. しかし卸売価格が下落した場合には、出荷者と卸売人とは事情を異にする。出荷費用が一定であれば、卸売価格の下落が甚しい場合には、出荷者の利益は少くなるか、或いはマイナスになる可能性さえある。しかし卸売人は定率手数料をとっているから、生産者ほどの打撃を受けないであろう。

4. 卸売価格の高低と小売価格との関係を見ると、卸売価格の安い年は、小売価格の卸売価格に対する比率は概ね大きく、卸売価格の高い年は、反対にその比率は小さくなっている。すなわち野菜類5種類の平均で、1kg当りの卸売価格は、45年を基準(100)とすれば、46年83.9、47年153.5であるが、小売価格は同様に46年84.6、47年124.6である。このように47年は45年に比べると卸売価格は53.5%上昇しているのに対し、小売価格は24.6%の上昇をみたのに止まっている。

果物ではどうか。果物は調査品目数が少いから、一般的な結論を下すことは慎まなければならないが、ここでは一応暫定的にはあるが、次のことが考えられる。

果物の卸売価格(調査期間中のそれ)は、過去3か年に、年々低下している。すなわち45年を基準にすると、46年97.0、47年77.7と低下した。これに対し小売価格も46年95.6、47年84.0となった。このように果物と野菜とは反対の動きを示した。

次に卸売価格に対する小売価格の比率(倍率)を計算すると、野菜では45年220.5%、46年222.4%、47年179.0%となり、果物は同様に186.3%、183.7%、201.4%となる。

このような動きをみると、卸売価格がある水準以上に高いときには、小売価格と卸売価格との開差は縮小し、反対の場合には、却ってそれが大きくなる傾向があることがわかる。つまり小売価格は、卸売価格ほどには変動巾は大きくないといえる。

5. このように卸売価格に比べ、小売価格が、ある程度硬直的である理由は、小売商の経営的事情に由来する。その第1は、小売商が、卸売価格の変動を直ちに、その小売価格に反映せ

しめるとせば、消費者に対し、一種の不安感を与え且つ店の信用にも影響するから、なるべくそれを避けようとする、第2は小売商の経営の立場からいえば、取得率そのものよりも、むしろ全体として、ある金額のマージンを確保することの方が大切である。

すなわち小売商の仕入価格がある程度以上に上昇した場合には、その価格上昇率をそのまま小売価格に反映せしめたマージン率をきめる必要は必ずしもない。ある額のマージンを確保すればよいはずである。だから小売価格は卸売価格ほどに上昇率は大きくないのである。それだから、小売商の立場からいえば、その仕入価格が上昇した場合よりも、下落した場合の方が、却ってその取得率を大きくする必要があるといえる。つまり卸売価格の低下に比例して小売価格を低下せしめ得ない事情がある。そのために、小売価格は、卸売価格に比べると硬直的となるのである。ここに流通費用要因としての小売商のマージンと卸売人、仲卸人のマージンとの性格的な相異がある。

6. 次に小売店を性格別にみた場合の流通費用を窺うために、小売価格の比較を試みると、スーパー・マーケット、公設、私設、八百屋は概して安く、専門店、デパートは高価であることが明らかにせられた。しかしこの場合注意すべきことは、価格の比較をなす場合に、品質差を十分考慮に入れることができなかつたということである。一般的にデパートや専門店が高価なのは、その仕入価格が高いこと、従って品質が良好であることも影響していると推定せられる。こうした点を考えると、小売価格の店による価格差は、ある程度、その品質差を表現しているともいえる。この点についての検討は今後の研究にゆづることとする。

7. 小売価格と地域別にみると、概ね市の中心部——商業地域——が高く、住宅地域をもつ地域が安い。これは商業地域の中には、デパートが含まれていたこと、住宅地域を含む地域の中にはスーパー・マーケットが多く調査対象に含まれていたことによるものと考えられる。

一般に、他の条件が同一であれば、小売価格は、市場からの距離の大きい地区ほど、高くなるはずである。しかし、その差が大きい場合には、そうしたことよりも、消費者の購買力の質的相異が、小売価格の地域差を生ぜしめているようである。この問題については、なお今後の検討にまつべきものが多い。

稿を終るにのぞんで、本調査の実施に当り御協力を賜った名古屋市中央卸売市場業務課の調査係、名古屋青果の関係者、アンケートの回答をよせられた出荷者各位に対し、深く感謝の意を表しておく。また調査の協力せられたゼミの学生小田さち代、富井信子、富田啓子、柴田秀子、永井悦子の諸姉に対しても謝意を表する次第である。

(47.11.3)

参 考 文 献

- 1) 拙稿：1971：青果物の流通費用に関する調査研究 I 名古屋女子大学紀要 17, 125~133
- 2) 拙稿：1972：同 II, 同紀要 18, 253~261
- 3) 拙稿：1972：同 III, 同紀要 18, 263~274
- 4) 拙稿：1973：同 IV, 同紀要 19
- 5) 拙稿：1938：青果小売価格に関する調査研究 A 5, 87頁